

令和8年 第2回八雲町議会全員協議会会議録

令和8年2月5日 議員控室

○事 件

協議事項

(1) 役場新庁舎等建設事業について

報告事項

(1) 役場新庁舎等建設事業について（住民説明会を終えての中間報告）

○出席議員（14名）

議長	大久保 建 一 君	副議長	宮 本 雅 晴 君
	赤 井 睦 美 君		三 澤 公 雄 君
	横 田 喜世志 君		黒 島 竹 満 君
	関 口 正 博 君		牧 野 仁 君
	安 藤 辰 行 君		斎 藤 實 君
	倉 地 清 子 君		寺 田 広 樹 君
	小 西 雄 一 君		水 野 博 美 君

○欠席議員（0名）

○出席説明員（10名）

町長	萬 谷 俊 美 君	副町長	竹 内 友 身 君
新庁舎建設推進室長	川 崎 芳 則 君	財務課長	井 口 貴 光 君
建設課長補佐	池 田 裕 史 君	管理係長	松 田 力 君
新庁舎建設推進室次長	吉 田 正 樹 君	建築係長	安 藤 巧 君
建築係主任	中 野 成 紀 君	財務課長補佐	南 川 達 也 君

○出席事務局職員

事務局長	野 口 義 人 君	事務局次長	藤 原 悟 史 君
庶務係長	千 代 貴 大 君		

◎ 開会・議長挨拶

○議長（大久保建一君） おはようございます。

それでは、令和8年第2回全員協議会を始めたいと思います。

議長挨拶ということですが、正月が始まって以来、成人式だとか、出初式だとか皆様議員活動お疲れ様でした。新年会は各町内会で終わってるとは思いますけれども、皆さんご参加のことと思いますけれども、議会のことについてもご説明いただければと思っておりました。風邪等流行っておりますので、皆さんお体に気を付けていただきたいと思いますと思っております。

◎ 協議事項

○議長（大久保建一君） 新庁舎について、早速協議事項に入りますけれども、前回説明を受けました。それで、町長部局とすれば、1番の現設計のまま進める、2番の新たに設計をし直す、3番の庁舎建設をしないという3つのパターンについて説明されましたけれども。これについて、議会側でもなるべく早く方針を定めていかないと、行政側もスタートしていけないということですので、前回の説明を聞いてからは、各会派にそれぞれの考えをまとめておいてくれというお話もしましたし、新庁舎に対する説明会にも各議員皆さん参加して、町民の声を聞いていたことだと思いますので、今日はその調整をさせていただきたいと思います。

それでは、各会派から話し合った結果等を話し合っていた上で討論していきたいと思っております。そのような進め方でよろしいでしょうか。

（「はい」という声あり）

○議長（大久保建一君） それでは、まず、和醸良政会のほうから。

○議員（黒島竹満君） 私どもの会派で打ち合わせをいたしました。基本的には、2番のほうで私の会派は考えております。

ただ、基本設計、実施設計が終わっている状況でございますので、この1億9千万をただ投げるのではなく、この部分をおそらく実施設計、基本設計の完成が終わってお金を払っているわけだから、完成品として多分役所のほうに来て我想います。

それを利用しながら、少しでも今後のコストを下げるようなかたちの中で考えられないかなというふうに話し合っております。以上です。

○議長（大久保建一君） 現設計を生かして変更してということですね。

○議員（黒島竹満君） そういうことです。

○議長（大久保建一君） わかりました。

○議員（黒島竹満君） できるだけ今までの基本設計、実施設計を生かしながら持っていければ、1億9千万をただ投げるんでなくして。

そうすると、やっぱり町民の声もそんなかたちじゃないかな、というふうに思うんですね

○議長（大久保建一君） わかりました。

では、元気さん。

○議員（赤井睦美君） うまく話せないし、ど素人なので私たちは。

ここに書いたんですけれども、まず、町民説明会の皆さんの声を聞きながら、本当にシンプルで機能的で、今後30年以上維持費のかからない庁舎というふうに考えています。豪華さよりも運用コストを最小化すると。それで30年間の維持費を考えていくということを中心に考えて、先ほど言われたように、私も1億9千万円まるまる捨てるのは本当にもったいないと思うんですけど、確か役場のほうの説明で、2番を使うとしたら、今までの設計は多分使えないと思います、という説明があったので使えないのかと諦めてしまったんですけど、万が一活かせるのであれば、ぜひ活かしてほしいとは思っています。

それで、素人なので、コンセプトはこの四角で囲んだものなんですけど、AIに相談して以下のようにになりました。

一番八雲町にふさわしい感じで、こういう感じがいいんじゃないかなと、私たちも賛同したので。私たちは建物もそうなんですけど、裏に書いてますけど、ソフト面もやっぱりね、連携してほしいと。町民の意見の中に、シルバープラザはまだ使えるんだから、シルバープラザをそのままにして、そして、今まで通り使ったほうがいいんじゃないかっていうご意見もあったんですけども。いや、もう本当に連携取れてなかったら、町民が困るので、全員新しい庁舎に引っ越してきて、シルバーの使い方はまた別に考えて、中にはきちんと各課があってほしいです。

それから、ずっと前に岩村町長も課の編成もね、考えなきゃいけないというふうにおっしゃっていたので、もし今後、町民にとって最も使いやすい連携されたかたちができればいいと思います。

だから、庁舎はもちろんですけど、ソフト面でもより良い内容に変えていってほしいと思っています。以上です。

○議長（大久保健一君） 1番、2番、3番でいけば、2番でいいということですね。

○議員（赤井睦美君） はい。

○議長（大久保健一君） わかりました。

では、春夏秋冬さん。

○議員（寺田広樹君） 私たちの会派での協議した結果は、新庁舎に公民館と現シルバープラザ内にある福祉課を集約した新庁舎が望ましいという結果になりました。

現在、公民館も老朽化が激しくあります。内側も外側も非常に傷んでおりまして、職員、そして利用者も新庁舎に公民館を移設するという案がこれまであり、それに期待して、大きな補修工事もせず、我慢に我慢を重ねて利用してきております。

そういった方たちの期待にも応えるべく、新庁舎には公民館も収容するというのが望ましいのではないかというのと、もう一つ。

福祉課も集約することで、業務の効率が格段に上がると考えております。そういったことから、新庁舎は公民館、福祉課を集約した複合庁舎が望ましいのではないかということになりました。

そして、次に、合併特例債期限内に確実に工事を完了するにはどうしたらいいのか、ということも協議いたしました。

これまで、膨大な時間を費やして協議等をしてまいりました。そういった町の考え、町民の考え、そして各団体組織の考え、議会からの要望とこれまで幾度と協議を重ねてまいりました。そういった時間、情報資料を無駄にしないためにも、私たちはこれまで一緒に町に寄り添って考えてきた隈研吾、二本柳設計事務所に再度、一から設計を依頼するのが望ましいと考えております。

すみません。公民館と福祉課を集約した新庁舎であれば、2番のゼロベースからの再設計も致し方ないという会派の協議の結果になりました。

そして、設計は再度、隈研吾二本柳設計事務所に再度依頼するのが時間、そして、設計費も考えたうえでは一番ベストではないのか、という結果になりました。以上です。

○議長（大久保健一君） わかりました。

最後、新風会お願いします。

○議員（牧野 仁君） 私たちの会派では、私もそうなんですけど、まだもちろんモヤモヤして、やはり今まで積み上げてきたのを持続可能な環境をつくる庁舎を建ててほしいというのがまず一点目なんですけども。

その中で、今回の入札の2回目のヒアリングもそうなんですけども、どうも9億円の差がまだ根拠を示されてないので、それをもう少し理事者側に根拠を示せるように調べていただきたいな。

それと、今まで1億9千万。皆さんも言ってたとおりにもったいないので、それを実施設計もそうだし、基本設計でかかった部分、それを利用できないかなと思っております。

私たちは、複合施設はちょっと譲れないなど。将来のこと。やはり公民館もそうだし、シルバーにいる職員、横のつながりというのは、本当に職場で仕事をするうえで大事なことなので、なるべくそういった環境をつくってほしいなど。働きやすい環境。

これからはもちろん一番の問題は、人口減少も進んでいる中で、これからの職員も減る中で、まだこれからもさらにコミュニケーションが大事になってくると思うので、そういった観点から、将来のことを考えたら、複合施設、それを大前提に考えていただきたいと思っております。

それと、連携なんですけれども、いろいろ先日も不祥事が起きておりますし、私も町議になって毎年のように起きている感じがするんですね。職員が。それはちょっと情けない話で。他の町村から見てもちょっと多いような気がするんですけども。

それも含めて、予防としてそういう環境を作ってほしいと思っております。そんな中で、2番目に町長が示したとおりになると思いますが、町民の説明会でも、圧倒的にそっちのほうがよろしいんじゃないかという意見も出てますので、それも含めてやってほしいなどと思っております。以上です。

○議長（大久保健一君） それでは、各会派の意見を聞いたところ、この1、2、3でいけば2番目。皆さんよろしいということでもいいですね。

（「はい」という声あり）

○議長（大久保健一君） それと、ちょっと意見を聞くと現設計を全く捨ててしまって、1億9千万円を捨ててしまうのは全くもったいないという意見が多かったので、改めてこの現設計を活かした上での設計変更みたいなものが本当にできないのか。できないのであれば、その合理的な説明っていうのを再度求めるということで、よろしいですね。

あと、複合施設にするかどうかっていうのはおっしゃってた会派もあるし、言ってなかった会派もある。ただ、職員同士の連携っていうものについては、各会派、これは求めていることに関しては異論はないと思うんですよ。その辺、私が聞き取ったところなんですけど。

あと、各会派の発表についてちょっと聞きたいとか、こういうところちょっとどういう意図なんだろうというものがあれば、質問していただければと思いますけれども、いかがですか。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保健一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） 今、皆さんの意見を聞いて、2番っていうところにこだわってるんだけど、僕はこれ、第4の選択肢なんだろうという考え方なんですよね。要は、現設計を活かしつつ、変更を加えるということだと思っんです。

概ね議員の皆さん方これまで協議してきた中で、この複合施設というものには、ほぼ異論がないだろうということだと思っんですよね。ちょっと、これから行政側との話もありますけど、あまりにも建築コストに捉われすぎて、大事なこと見落としてんじゃねえかなというふうにも僕は正直思っんです。

ですので、やたら町民説明会でも、2番2番ということやってたけど、これは第4の選択肢として現設計を活かしつつって話じゃないかな。これが今皆さんの話を聞いた中でってことなんじゃないのかな。もちろん、1億9千万円無駄にする必要が全くないし、町民説明会を聞いていて、外部の話は出ててもこの複合施設の内部の話なんていうのは一切出てないし、同時に施設は建てるんだけど、いろんなものを壊していかなくゃならない。

それこそ、将来設計というものをまず考えなくゃならないし、考えるのが我々の仕事なんで。やっぱりそこは議会として、この場ではしっかりと行政側に伝えるべきかな。そこは2番じゃなくて、4ということをおは伝えたほうがいいと思っ。

○議長（大久保健一君） 1、2、3以外でね。

○議員（関口正博君） そうです。それが僕は一番、今の現段階ではベターであろうなというふうにお思っんですけど、皆さんの意見を伺いたいです。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（大久保健一君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 確かに今すみません。言われたとおりに、僕らの会派も2番って言葉を使ったんですけども、あまりにも現設計のデザイン性ばかりに捉われて。デザインは、僕はおまけだと思っんですよね。いろんなことで設計思想が入ってたものを一切説明もしないで誤りに終始してって、最終的に説明会の最後には、19日の僕らの説明の時には、触れていなかった庁舎単独の機能だけでもいいみたいな説明になったってことで、ちょっと役場からの1、2、3の提案に沿ったかたちでの②って集約の仕方は非常に誤解が生じるので、せっかくこの全員協議会になったので、十分中身を検討した提案にしたほうがいいと思っます。

まさしく、関口さんおっしゃったように、④って考え方。皆さんの中でいろんな捉え方がまだかなり幅があると思っんで、意見集約でしっかりやっていきたいと思っます。

○議長（大久保健一君） 他。

○議員（関口正博君） 何回もごめんなさい。

○議長（大久保健一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） あと一点だけ。先ほど、牧野議員もおっしゃってましたけど、差額の根拠というものをしっかり示されな限り、要はいくらコンパクトにしてまた入札かけようとしても当然、民間との考え方に差があるのであれば同じことの繰り返しなんです。それは、やっぱり一番懸念される場所なんですよね。

鉄骨という部分にこだわって、値段が合わない、合わないという説明は受けていましたけど、一回目の入札の後の新聞報道見ると理由がわからないみたいなお話になってましたけど、町側がそのような原因をもし抑えてないとするならば、同じことが繰り返される可能性があるんですね。

それで、前回申し上げたけど、民間の考え方と当然自治体側の考え方と差異があるんじゃないかということをおっしゃいました。いろんな自治体でこのような事例が起きてますので、これは八雲ばかりじゃないんですよ。

ですから、この積算根拠というものは、やはりちゃんといろいろ、もちろん何もかも民間に譲歩するということではないんですけど、ある程度自制に合ったかたちに変えていかなければ、この短い期間の中で、しっかり立て替えることができるような積算というものをちゃんと研究しなきゃならないんじゃないのかなというふうに思いますけれども、その辺にちょっと皆さんに揉んでいただきたいなと思います。

○議長（大久保健一君） ただいまの意見について、何か。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（大久保健一君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 異論ありません。本当にこの2回の不調に関しての役場側の説明。特に2回目に関しては、参加入札申請もされなかったということなんで、聞き取る相手がいなかったということですけども、かなり根拠のある、道外から買うっていう提案が根拠のある数字を作ったと知っているんでね。こちらには落ち度はなかったというのであれば、しっかり原因究明しておかないと。限られた時間で、今新しい提案で進んでいくっていう。

例えば、議会が後押ししたとしても、最後の最後の本当に入札の場面でまた同じことがされてしまっただけは、合併特例債をパーにしてしまうことになりますので、ここは議会の働く場所だと思います。よろしくをお願いします。

○議長（大久保健一君） ほか。

○議員（横田喜世志君） はい。

○議長（大久保健一君） 横田議員。

○議員（横田喜世志君） 新庁舎のことについては、我々も結構古い2年とか3年のあたりで研修に行ったりとかもしてるし、その時点での話では養護学校を利用するっていうのがあったはずなんです。

それで、話が進んでいく中で、養護学校との接続云々っていう話で、独立した庁舎の設計になっていったと思うんですけど、どうもせっかく買った建物を、もっと昔の話をすれば国立病院跡地に残った建物を利用できるものは利用するっていう話のそこから、どンドンずれていったっていうような気持ちがあって、せっかくそういう手に入れたものを利用しないようなのはどうなんだろうなとは思ってますよね。

だから、2年とか3年に出た養護学校を郷土資料館、公民館機能というものを持たせるような発想があったのが全然なくなってる。町民説明会の中で、先ほど言っていた庁舎オンリーの建物でもいいという行政側の説明からすれば、養護学校を利用することを再度考える必要があるのかなって思ってるんですけど。

それで、隈研吾設計の建物を建てるにあたって、それこそ養護学校は物置状態にという話になってしまったのが非常に残念な気持ちはあったんですけど、そこを庁舎もある程度縮小しなきゃなら

ないとかっていう考えがあるのであれば、もともとの養護学校を公民館機能なりに利用するという、また考えに戻るといふか。またそういう考えもあるんじゃないかと戻る必要性もあるのかな、というふうに思っております。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（大久保健一君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 当時の庁舎特別委員会の委員長をやってたんで、その辺の議論は確かにありましたよね。養護学校と併設する形で渡り廊下でつないで云々っていう。

なので、あの地域に3つの機能を集約するという考えの今、大方の人たちが話したことをやっていくなら、今横田さんが言われたような、そういうところから始めてもいいのかなと思うんですけど。

でも、あの時検討した中では、駐車場だとか動線の確保をするときに、非常に現養護学校につながるツールを作っていくのは不合理というか、合理的ではないっていう意見の集約を見て、1つの建物の中に3つの機能を入れようというふうに集約していったと思いますから。

その時の議論をもう一度再検討した上での、あの地域での3つの機能ということをもう一度この議会でも話し合うのか。僕は、全く全部否定できる提案ではないと思うんですが、あの場所に3つの機能を入れるっていうのであれば、現の施設を使うと。

ただ、あの時点でも改修費と導線の確保の難しさとか、用地の面積がなんか使い勝手が悪くなるだとか、そういったことを乗り越えられる提案になるのかどうか。僕らの中でも、そこからするのはいいけども、すでにもう終わっている部分は、議論として終結している部分は読んでない新人さんは、その資料を読みながらでもやっていくっていう。0から考えるのではなくて、すでに議論したことも踏まえた上で検討していけば、議会の中でも時間短縮を図れるのかなと思います。

○議長（大久保健一君） それについては、私も申し訳ないんだけど、そこまで遡ってしまったら、議論がもう何回でも白紙に戻ってしまうので、今積み上がってきた議論をもとに話さないとならないと思うんで、養護学校についても、もうすでに書庫についての書棚の入札も終わってますし、確かにもう設置をしてると思うんですよ。

だから、今分散されているそれぞれの学校だとかにある書類とかをあそこに集約して、あと、災害物資をあそこに集約するっていうようなお話で今は進んでいると思うので、そこをまたひっくり返してるということになると、もうどこまでも自由な討議になってしまうので、そこまではしないほうがいいんじゃないかなとは私は思います。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（大久保健一君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 僕もそういうところはよぎってたんですけど、改めて横田さんから提案されたときに、待てよと。役場側がすでに養護学校のもう一度、検討ってことを説明会で言ったんですよね。驚きましたけど、19日に皆さん覚えてないかもしれないけど、僕のほうからシルバープラザのサイド、そこは使うっていうような水を向けたけれども、あの時点では、養護学校を使うなんてことは一切触れないで。

だけど、町民説明会では向こうが触れ出したので、今、議長が言われた。すでに養護学校の今の目的として使うっていうところを乗り越える提案を町側もしているのかもしれないということは、

ちょっと考えなきゃいけないのかなと思ったので、横田さんの話には、ある意味そうかと思って聞いてました。

○議員（赤井睦美君） はい。

○議長（大久保健一君） 赤井議員。

○議員（赤井睦美君） 養護学校を閉鎖したすぐに使うのであれば、それは考えてもいいかなと思うけれど、もう本当に密閉したっていうか、床もうひどいし改修費が相当かかるということですね。私はそこにお金をかけるよりは、複合施設にしたほうがいいと思うし、公民館の機能を持つていくことによって、部屋が増えるって意見もあるけれども、今公民館はほとんど昔と違って使われてないんですよね。頻度が下がって、公民館を活用する人が減ってきてしまっ

だから、そんなにそんなに今ある会議室をそのままプラスするという必要は私はないと思うのでね、ぜひ複合型で考えていってほしいと、町には思っております。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保健一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） もう1つ、その養護学校の点において、検討しなきゃならない部分って言うのは、要は、先ほど議長がおっしゃったように書類をまとめる書庫としての役割で、それを預かっている古い学校があるということ。そこをしっかりと壊していかなければならないという計画的に。当然、古い学校とかの将来負担になってくるので、そういうことも踏まえて我々は考えていかなきゃならないということは、議員の皆様方しっかり意識しなきゃならないんだろなと思うんですよね。

デジタル化が進んでいないおかげで、書類が全然処理されない。それで、たくさんの過去の書籍が、廃校になった学校にあるということであるんで。そういうものは、しっかり仕事の効率性を図るためにも養護学校にしっかり書類とかそういうものをまとめて、また防災拠点の役割もあるんで、そこはちょっと議論から外したほうが本当にいいのかな。

ただ、町民説明会で一町民からはそういう意見も上がった。そういう曖昧な説明をしたばかりに。だから、そこは強く行政側には、こういうこともあるんだよということは、伝えるべきではないのかなというふうには思います。勘違いしますよ。曖昧にここを使ったほうがいいとか、どうだとかというのは惑わすことになるので、しっかり理論付けしながら説明したほうがいいかと思

○議長（大久保健一君） 他、何かありますか。あらかた出尽くしましたかね。

それでは、議会としての方針とすれば、まず2番ではなくて第4の考え方として、現設計を活かした上で、1億9千万を無駄にしないで、設計変更というかたちでまず対応できないかということが1つ。

あと、これから進めるにあたって、前回の9億円不調になった理由というのをきちんと踏まえた上でやらないと、また同じことが起きてしまったら困るから、そこら辺は根拠をちゃんと追求してくれていうこと。職員同士の連携というものを考えれば、安易にバラバラに庁舎機能だけを立

てればいいということではなくて、ある程度複合したものを建てて欲しいということが1つ。

○議員（牧野 仁君） そうですね。

○議員（三澤公雄君）　ということは、今、議長の言っている現設計を活かしてっていうのは、今の設計業者と引き続き設計変更の話をするという言葉の理解。

○議長（大久保建一君）　基本設計と実施設計をもう完成品として納品されたわけでしょう。だから、それはもうお金も払ってるし、それを活かした上での設計変更って、現設計会社をお願いするってこんなじゃないの。

○議員（三澤公雄君）　そういう理解でいいんだよね。

○議長（大久保建一君）　そういう理解だよ、皆さん。

だって、現設計を活かして他の設計会社についていうことにならないしょ。

○議員（三澤公雄君）　買い取ったからっていう表現があるけど、設計業界っていうか、ちょっと聞くと、それは。

○議長（大久保建一君）　宇宙知的財産みたいな。

○議員（三澤公雄君）　なので、使い回しはできないというふうに理解されているみたいだから。

○議長（大久保建一君）　だから、これは一応議会としての大きな方向性としては、そういうことでよろしいですか。

（「はい」という声あり）

○議長（大久保建一君）　そしたら、それを町側に伝えて。この後、町側のほうも今の考えをお示ししたいっていうお話があるみたいなので、10分くらい休憩した後に、町側も交えてお話ししたいと思いますんで、よろしいですか。

（「はい」という声あり）

○議長（大久保建一君）　それでは、40分再開です。

<<休憩>>

<<再開>>

【新庁舎建設推進室職員入室】

○議長（大久保建一君）　それでは、再開いたします。

まず、議会のほうで前回の全員協議会で、町側のほうから説明を受けたことについて、各会派で話し合いましたので、それについて考えをお示した後で、町側の現時点でのお考えをまた聞くということで、そういうかたちでいいですか。

（「はい」という声あり）

○議長（大久保建一君）　それでは、まず先ほど各会派の結論で話し合いを行いました。

その中で出たのは、まず現設計、基本設計実施設計をまったく見直して、1億9千万円を棒に振ってまでっていうことについては、皆さんそれはもったいないんじゃないかと。なので、現設計を活かしながら、設計変更等に対応できないのか。もし、それが対応できないのであれば、その根拠を合理的な説明をしていただきたいということがまず一つ。

それと、町民説明会等でお話が出てました。コストにとらわれすぎて複合施設じゃなくて、バラバラに考えるっていうようなことは、あまりよろしくないんじゃないかというの、職員同士の連携というものを重視していただきたいので、やはり複合施設で考えていただきたいということがもう一つです。

あと、前回の施工に関して9億円の不調で落札にならなかったということについて、きちんとそれを原因を究明してやらないと、再度設計変更したとしても、また同じことが起きてしまう。なので、その原因究明というものをきちんとした上で進んでほしいということです。そういうことでよろしいですね。

(「はい」という声あり)

○議長(大久保建一君) そういうふうな考え方で、議会としてはまとまったところでございます。

それで、町側の現段階での考えというのをお示しいただければと思います。

○新庁舎建設推進室室長(川崎芳則君) 議長、室長。

○議長(大久保建一君) 室長。

○新庁舎建設推進室室長(川崎芳則君) 今日は、今役場庁舎に関わる報告ということで時間をいただきまして、ありがとうございます。今、議長のほうから3点お伺いしましたが、まず町の考え方をお示ししたいと思います。

役場庁舎の建設事業につきましては、ご承知のとおり町民説明会を開催いたしまして、その結果を踏まえた今後の事業方針について、報告をさせていただきたいと思います。

町民説明会につきましては、1月21日、落部レクセンにおいて20名の参加。23日については、はぴあにて午後2時の部、128名。午後6時の部、55名の参加により、開催したところでございます。

説明会では、選択肢1、設計価格を現設計のまま進める。選択肢2、現設計を活用せず、ゼロベースから新たに設計し、事業を進める。選択肢3については、計画をいったん凍結し、事業を実施しない。この3つの選択肢について、それぞれにおける財政的な部分を含めて、メリットですとか、デメリットを説明いたしまして、総合的に判断をさせていただいた結果、選択肢2の現設計を活用せず、ゼロベースから新たに設計し、庁舎建設事業を進めることが妥当との町の考え方を報告させていただきました。

一部の町民の方からは、これまでにかけた設計費が無駄になることへの責任や、現設計での底箇所の見直しを進めることはできないのか、などのご意見がございましたが、すべての会場のほとんどの町民の方からは、選択肢2で進めることに同意をいただいたものというふうに認識をしております。

この町民説明会の結果を踏まえまして、選択肢2のこれまでの設計は活用せず、新たに設計することを基本に、庁舎建設事業を進めていきたいというふうに考えております。これまで総合公共施設総合管理計画に基づきまして、庁舎、保健センター、公民館の3つの機能を集約した庁舎整備として進めてまいりました。

これから3年後、4年後のさらなる資材や人件費の高騰など、事業費増を見越すと、事業費を少しでも抑えることが最重要と考えております。新しく整備しようとする庁舎におきましては、庁舎と保健センターの2つの機能を有する面積を縮小した形の建物といたしまして、また、公民館機能については、築30年のシルバープラザを公民館として大規模改修し、延命化を図ることで長期間にわたり有効的に活用できるよう、検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

なお、養護学校につきましては、こちらの施設も使えないかということで検討いたしましたが、各教室の仕切り壁の撤去、暖房設備の改修、屋上防水工事などに多額の費用が発生することがありまして、公民館や保健センターでの活用としての選択肢から外したものでございます。

以上が、町民説明会開催結果を踏まえた、基本的な今後の事業方針として、報告させていただきますので、よろしく願いいたします。

○議長（大久保健一君） はい。ただいま報告を受けましたけれども、これについて質問、ご意見等ございますか。

○議員（赤井睦美君） はい。

○議長（大久保健一君） 赤井議員。

○議員（赤井睦美君） シルバーを公民館機能ということは、教育委員会そのものは庁舎に入ることによろしいですか。

○新庁舎建設推進室室長（川崎芳則君） はい。

○議長（大久保健一君） 室長。

○新庁舎建設推進室室長（川崎芳則君） 今のところ、まだ最後までは詰めておりませんが、可能であれば、集約したところに教育委員会が入っていければなというふうに考えております。

ただ、公民館の管理の部分がありますので、その辺は例えば社会教育課が残るのか、その辺はこれから詰めていきたいと思っております。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保健一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） 先ほど、議長のほうからあった質問に対して、当然それらの精査はまだ終わってないでしょうけれども、要は今回の入札不調の原因の究明という部分は議長からおっしゃられたかと思いますが、建設課の抑えとしてね、それは、一回目の新聞報道では原因がわからないみたいな言葉があったと思うんですけども。

そこに対しては、鉄骨部分っていうのは、僕らも聞いてますけれども。そこだけのものなのか、いろいろな民間事業者と公共施設、要は町側の考え方にどうしても差異がある部分というものの原因究明というものは進んでいるのかということ再度ちょっと、議長から言いましたけれども、お示しいただければと思います。

○建設課長補佐（池田裕史君） 議長、建設課長補佐。

○議長（大久保健一君） 建設課長補佐。

○建設課長補佐（池田裕史君） 今回の部分につきましては、二度の入札不調を受けまして、うちのほうといたしましては、この主要部材である鉄骨が大きな開きがあるということで調査したという部分であって、細部についての調査まではしていません。

ですが、今回の結果でわかったとおりですね、道内の市場単価。それと、設計のうちのほうで使っている北海道単価や観光物調査機関の観光物単価、それについても1年に一回は更新されて、市場単価をもとに弾き出した単価でありますので、その乖離を情報として収集していきながら、柔軟に対応して不落になるようなことがないように、これから十分精査してまいりたいと考えております。

○議長（大久保健一君） よろしいですか。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保健一君） ほか。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（大久保健一君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 精査するっていう答弁だったと思いますけど。例えば、2回目の入札をするにあたって、道外の価格を参考にされたっていうふうに聞いてましたし、なるほどと思ってました。

それで実際、その金額を調べるにあたって、道外の業者さんから価格等を聞き取りしたんだと思うんですけども、その業者さんに改めて、こちらからそういうところから仕入れればいいよって言ったわけですから、道内の八雲の役場に手を上げようとしている業者から、何がしかのアクセスがあったかどうかというのは調べる対象になると思うんですけど、そういう調べ方はするんでしょうか。

○建設課長補佐（池田裕史君） はい。

○議長（大久保建一君） 補佐。

○建設課長補佐（池田裕史君） 設計の中で、今回見積もりを取った道外の会社のお名前だとか住所を開示することはできませんので、ただ、実勢価格として見積もりをとった中で一番安い。そして、実際に搬入できる、そういう事実を全部確認した上で、一番安いところを設計価格に持ってきたという段階ですので、その業者に問い合わせが来たかどうかというのは、うちのほうとしてもやっておりませんし、今後も業者ということでの指定はできないのかなと思っております。

○議長（大久保建一君） ほかの意見、ご質問ありますか。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保建一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） 今を踏まえてなんですけれども、我々が危惧するところっていうのは、いくらゼロベースにして新たにいろいろなものを構築するにしても、その原因がつかめていない限りは、また同じことが起きるなということを心配してます。

もうゼロベースということになると、当然、先ほども室長が申し上げたとおり、いろんなものが上がってくる。それで、期間が限られた中での建築ということになりますので、まずはしっかりその原因というのを抑えていない限りは、また同じことが起きた時に、もう合併特例債そのものも使えなくなるだろうし、それだけは絶対に避けなきゃならないという思いで、そこを申し上げているんですよ。

別に、町側を攻めているわけではなくて、そこはしっかりちゃんと究明をしていただきたいんですよ。それじゃなかったら、議会としても、ああ、そうですかっていうことにはならない。その辺は、重ねてお願いしたいです。原因究明というのをよろしくお願いします。

○議長（大久保建一君） 答弁はいいですか。

○議員（関口正博君） はい。

○議員（寺田広樹君） はい。

○議長（大久保建一君） 寺田議員。

○議員（寺田広樹君） はびあの町民説明会での町民からの質問10名前後だったと思うんですが、それが町民の声だっていう判断をしたということですか。

○町長（萬谷俊美君） 議長、町長。

○議長（大久保建一君） 町長。

○町長（萬谷俊美君） 説明会は、3箇所でさせていただいております。はびあ昼からと夜と、落部ということですよ。

それで、一定程度の意見発言者の中で、1.9億円の設計費の無駄についての批判の意見も、どこかの会場でもありました。ただし、現設計のまま、予算額を上積みして進めていいよという意見は一つもなかったという判断をしております。現設計を活かした、先ほど議会からも言ったように、活かしたやり方はできないのかという意見は何人かからありましたけれども、ほぼ2の町側のゼロベースからやっけていいよという意見だったと。全体で拍手も起きていましたので、そういうことからすれば、十分それで町民の意見を反映した進め方だというふうに思っています。

これ以上、時間の関係もございませうけれども、1からアンケートを取り直すだとか、そういうことは時間的な制約の中では無理だと思っておりますので、今回の説明会の町民意見を踏まえて進むべきだろう、というふうに、私は思っております。

○議員（寺田広樹君） はい。

○議長（大久保健一君） 寺田議員。

○議員（寺田広樹君） 落部の説明会では、アンケートをとらないと発言されていたと思うんですが、はびあの説明会では、総務課だったと思うんですが、パブリック設置も考えていると発言されたと思うんですが。じゃあ、アンケートは取らないということですね。町民からの改めて。

○町長（萬谷俊美君） 議長、町長。

○議長（大久保健一君） 町長。

○町長（萬谷俊美君） 改めてアンケートはとらない予定でおります。それと、声を反映する窓口というご意見があったと思いますけれども、そこは総務課が庁舎建設の所管でございますので、そちらのほうで話はお聞きしますよという。

ただ、これから設計を進めていく中で、具体的な基本計画の中で、平面だとか規模が分かってきた段階で、再度町民に聞く機会を設けますよ、というお話をしておりますので、そういった機会を設けないと、なかなか町民も意見しづらいというふうに思います。

なので、今、今回の説明会というのは、時間のない中でどういう方向で調整を進めていくべきなのか、ということでの方向性の判断を決める説明会だというふうに思っていますし、議員の皆様にもそういった判断をしていただきたいなということで、今日再度全協を開かさせていただいたというふうに思っておりますので、その辺はご理解いただきたいなというふうに思っております。

○議長（大久保健一君） ほか。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保健一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） 町長の決断は、非常に重いものであるというふうに思っています。でも、じゃあ、議会とは何なのかという話なんですよ。もちろんの町民の意見は大事ですよ。我々は町民の代表として、ここに来てるんですよ。もちろん、それぞれが町民の意見というものを聞いている。僕も町民説明会2回、八雲の昼間のときはちょっと行けなかったんですけども。

私が聞いていた限りは、外部に対しては、当然批判的なコメントというのは大きかった。しかし、内部に関してまでの言及というものはなかったわけでありませうね。当然、町が示した選択肢1、2、3のうちの2が一番妥当であろうというような評価を受けたことは、これは十分承知しております。

でも、我々も町民の意見を聞いた中で、この町民の代表としてこの場に立って。先ほど、議長のほうから第4の選択肢として、設計変更はありえないのかということをお伺いしているんです。町

長決断はとても重いものだとは認識するんだけど、我々を、議会を軽視するという事は、これは正直言ってね、今の町長の答えに対しては、はい、そうですか、というわけには、ちょっといかないんですよ。

とりあえず、議会の議長に言ったことに対して、しっかりとしたお答えをまずいただきたい。時間がないのは、十分承知しております。我々もだからこそ、会派で集まっているいろいろ集約しているわけですけども、議会の言葉に対しての答えというものもしっかりお答えいただきたいな、というふうに思うんですけど。

○町長（萬谷俊美君） 議長、町長。

○議長（大久保健一君） 町長。

○町長（萬谷俊美君） 今の関口議員のお話でございますけれども、現設計を活かした、議会側の今の提案の対する回答ということでございますけれども、9億の差ということ。その原因究明は先ほど答弁してはいますが、これから再度精査をしたいというふうに思いますが、やっぱり物価高騰、資材の高騰、人件費の高騰というので、トータルの予定価格に対する差だと考えれば、やはり面積を小さくしていかなければ、今後の物価高騰も踏まえると、設計の平面からやり直さないと、規模を縮小したかたちでやり直さないと、また建設費が高くなる。

逆に、それに対して高くなって、それでもやるのかというご意見になりますので、一定程度、今の計画の事業費をオーバーしない範囲で、庁舎建設を進めていくべきだろうなという基本的な考えがありますので、先ほど方針の中で進めたように、公民館機能を除いたかたちで、まず、新庁舎の方は、保険センターとの複合で検討していくと、面積も4,500㎡程度というふうに思っていますので、現6,100㎡から比べると、かなり面積が縮小されます。

そういったことからすると、今の物価高騰の面積で、資材高騰の不調に終わった原因がそこにあるわけですから、そこを埋めても現計画の事業費の中で収まるようなかたちで進めていけるだろう、という判断がそこに働いているのは確かでございますので、そういったことで、こまごま究明はまだできていませんけれども、その差を埋めるためには、やはり建坪を小さくしていかなければ、建設費は多くなって、高くなっていくというのは事実ではないかなというふうに思っていますので、そういった観点でのお話ということで、捉えていただければ。

決して、議会を無視しているわけではなくて、まず、私は町民説明会を聞いた中での方向性、そして、時間がなかったから、こういうかたち今皆さんにもお示しして、再度説明会やアンケートをとらないといったわけでありまして、決して、議会を軽視しているなんて私は思っておりませんので、ここできちんと議会の皆様の意見を聞いて進めていくという姿勢でございますので、その辺はよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（大久保健一君） ちょっと待ってください。

6100㎡の縮小して何㎡って言いましたっけ。

○町長（萬谷俊美君） 4500㎡程度です。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保健一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） はい。分かりました。私もそうですし、他の議員もそうでしょうけれども、今の建築コストにはとらわれてないです。

いかにして、将来負担を少なくする。将来の地方の財政に余計な負担がかかるようなことをするべきではないという。これは、公共施設等の町のあり方に示されているとおり、これはあくまでもそこに則ったものであるし、それは、我々の立場の人間にとっては、当然のことだと思います。将来負担がないよう。将来、八雲町民が困らないようなかたちで進めていく。今の庁舎が50年、60年持つ。シルバーが今改修して、そのくらい長寿命が図られるのかもしれませんが、他の建物の解体ということも、随時考えていかなければならないんですよ。

今、建築コスト、そしてもう面積にとらわれて、逆に、将来世代に負担が増えるような決断だけは絶対しちゃならないという、これは我々議会の総意なんです。そういう形で、これまでも協議がされてきたんですよ。

町長も当然、行政側もいろんな考え方のもとにこの決断に至っているとは思っておりますけれども、どうか将来の負担というものをまず見据えた中で、10年、20年先じゃないですよ。この庁舎は50年、60年経っていくわけですから。きっと、50年、60年後なんていうのは、我々も皆さんもいないんでしょうけれども、その時にいろいろなことがまた余計にかからないようにしていかなきゃならないという考えのもとに、この協議に立っているということだけのご理解いただきたいというふうに思うけど、町長どうでしょう。

○町長（萬谷俊美君） 議長、町長。

○議長（大久保健一君） 町長。

○町長（萬谷俊美君） 関口議員のおっしゃるとおりで、将来の維持管理経費は、やっぱりきちんと縮減するかたちの建物にしなきゃいけない。

だから、今回の庇っというのは、建設コストも然ることながらランニングコストもかかるという、そういった構造であったということは間違いないわけでありますから、今後の進め方の施設については、やっぱりシンプルでデザイン性にこだわらない調査でいきたいというふうには当然持っておりますので、そこは将来負担は当然、関口議員のおっしゃるとおり、コストがかからない建物にしていきたいというのは、もう重々承知して進めていきたいというふうに思います。

○議長（大久保健一君） ほか。

○議員（赤井睦美君） はい。

○議長（大久保健一君） 赤井議員。

○議員（赤井睦美君） 面積が狭くなると安くなるっていうのは、非常によく分かるんですけども、今の総務課とかが入っている場所を見た時にとっても仕事をするような気になれませんよね。

もうほんと隣の人にぶつかるような、こんな狭い総務課ですよ、住民生活課とか。本当に狭い感じで。今、そして夏暑い中でね、ああいう中でも本当に大変な状況を見てると、やっぱり職員の方は、もうちょっとちゃんとある程度の最低限の場所を確保して、仕事できるように考えなきゃいけないと思うし、今だったら関口議員がおっしゃったように、ある程度お金をかけても維持費さえお金がかからないようにしていけば、建てる時はいいんじゃないかなって。

例えば、私も何か今回ほかの町はどうなんだろうと思ったときに、古平町は人口2,800人ですけども、面積は4,800平方で、2021年度だから、まだ安いというそれまでですけど、28億円全部使って、28億円建物でね。

それから、大樹町も人口は5,400人だけど、庁舎は6,500㎡で、2022年に建てて33億円とかって。そういうのを見ると、本当にシンプルで機能的で維持費がかからないというところで見えていく

と、うちよりももっともっと小さな町がこんな庁舎を建ててるんだと思うと、競うわけじゃないけれども、ただ今のコストを安く安くってというのはすごく分かるんですけど、より機能的にと考えてもらわないと、働く人がかなり大変じゃないかなと思うんですよね。

ですから、贅沢な庁舎は望んでいません。本当に機能的で、窮屈さを感じないというか、働きやすい、そういう庁舎を考えてほしいなと思ってるんですけども、私たちも説明会に行った時に、1円でも安くってという言葉が非常に町民の中に入っていて、1円でも安くってあんまり強く言って、本当にコンパクトすぎて、使いにくい庁舎なら意味ないよねって、帰りに後ろの方たちと話してたんですよね。

安く安くはもちろん大事だと思いますけれども、ある程度の機能はしっかりとつけてほしいと思いますし、それから、さっきの鉄骨のお話だけど、私たちがお店に買いに行くときは、1円でも安いところに買いに行くけれど、やっぱり建設屋さんって多分、長年のお付き合いがあって困ったときに頼むよって言ったら、ピュッと持ってきてくれるという関係ができてから、ここが安いからここで買いなさいってというのは、すぐに取り入れられるのかなって疑問もあるのでね。そうしたことも全部ひっくるめて、最低限こうだからこれでできますっていう計算ではなく、なんていうか、日常の金額と付き合いとかそういうことも考えながら研究してほしいなと思います。

それと、もう1個要望なんですけど。シルバーに公民館機能はいいです、別に。だけど、教育委員会はやっぱり複合施設に入れてほしい。それで、管理をするっていうのであれば、別に今町民センターだってシルバーだって管理任さんが別にいますよね。

そういうかたちで、社会教育だけは、あそこに単独で置くっていうのは全く意味がないというか、逆にもったいないなと思うので、社会教育課も学校教育課も庁舎に入れて、公民館機能であれば、管理人さんを置くというか、今なら機械でできるのかもしれないけれども、そういうかたちで町民が自ら使って、自ら町民センターもそうですけど、掃除して帰るくらいのそんなことができると思うから、社会教育は別にしますとか、そういうことは考えないでほしいと思います。これは要望です。

○議長（大久保健一君） 答弁はいいですか。

○議員（赤井睦美君） いや、1円でも安く売ってるところは、あんまり強くこだわらないでほしいと思いますけど、どうでしょう。

○町長（萬谷俊美君） 議長、町長。

○議長（大久保健一君） 町長。

○町長（萬谷俊美君） 私は挨拶の中で、そういう言葉を使ったのは確かでございます。

それはちょっと表現が正しくなかったのかもしれませんが、安くあげたいという言葉の表現だというふうに、私はしゃべったつもりでございますので、そこは誤解を招いたのであれば、誤っていきたいと思います。

いずれにしても、建てる庁舎については、機能性はやっぱり重視してやります。安いというのは、言葉の表現の綾であって、当然かかるものはかかるわけですから、機能性をやっぱりきちんと考えて、選択して取り入れる、取り入れないは、やっていきたいと思えますし、職員のデスクワークの広さですね。そこは当然、標準的な面積といいますか、スペースというのは、そういった場合に建築の中で基準はありますけれども、そこも皆さんと話しながら、環境が保たれるようなスペースの中で、机との配置で面積を確保できれば、確保していきたいというふうに思っております。

あと、先ほどの鉄骨の値段の話をちょっとされましたけど、そこはなかなか配慮というか、市場の単価を調査した中で、設計に反映させていくというルールがありますので、そことお付き合いしているところしかないから、こっちが安いからそこでやれっていう見方はなかなかできませんので、そこは建設業界の方もおりますので、基準にのっとって市場の単価の見積もりを取るものをもって、反映できるものを反映して設計していくという考え方なので、今回の二の手を踏むような設計の仕方はしないでいきたい、というふうに思っています。

先ほど言ったように、建設費も高くなるのでということが言葉の表現としては正しくなかったのかもしれませんが、そこも配慮しながら、建設費用が計画での範囲で収めるようなかたちでやっていきたいという基本的な考えはあるということで、ご理解いただければと思います。

あと、教育委員会の公民館に、昨日シルバーに行った時の社会教育があそこに入るのか、入らないかという件に対しましては、教育委員会と今後詰めていきますので、こういった意見がありましたよということも踏まえて、検討していただくようにしますので、よろしくをお願いします。

○議長（大久保健一君） ほか。

○議員（倉地清子君） はい。

○議長（大久保健一君） 倉地議員。

○議員（倉地清子君） 庁舎と福祉を縮小し、シルバープラザは公民館機能も入れながら回収していくというお話でしたけど、それは同時にやる予定でいるんですか。

○町長（萬谷俊美君） 議長、町長。

○議長（大久保健一君） 町長。

○町長（萬谷俊美君） シルバー機能というのは、保健センター機能、つまり今入っている保健福祉課は庁舎のほうへ移ります。そこで、子育て支援だとか検診をするというスペースは、新庁舎の中に設けますので、現計画の中とは変わりがないので、あくまでもそこが空くので、公民館機能をチューバーに持っていけないかということの検討を並行してやっていきたいという考え方です。

○議員（倉地清子君） はい。

○議長（大久保健一君） 倉地議員。

○議員（倉地清子君） じゃあ、並行してやっていくとで、同時ということでもいいですね。

現時点の判断としての理解はしましたけれど、やっぱりこの町民生活にとっては欠かせない公民館とか、福祉関係も欠かせない施設なんで、将来の町民負担を増やさない、今後の未来においても、そういう選択になっていくかどうかというのを検証とか、これから整理をしながら進めていくんだと思うんですけども、議会にも今後共有していただけるようお願いいたします。

○議長（大久保健一君） 要望ですね。

○議員（倉地清子君） はい。

○議長（大久保健一君） ほか。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（大久保健一君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 町が示した②の新たな設計し直すこと、現設計を活用せず、ゼロベースというここを着地点にしたいがために、現設計に対してのデザイン性ばかりを言葉にしちゃったから、町民説明会では、今の設計に入っているいろんな思想。もちろん、メンテナンスも見直しをしてね、屋根を低くしてきて、メンテナンス費用も抑えるっていう設計見直しもしてあったし、機能性だと

か、それも十分、議会からもいろいろ注文をつけて、つまりあれ全体の設計、思想も含めたものをすべて町民説明会で頭を下げることによって否定しちゃったんですね。僕はそういうふうに映りました。

なので、町民の声ということで、ゼロベースということで、町長先ほどからお話ししてはいますが、そこをもうちょっと言葉として仕切り直ししてね。今、議会の何人かの議員のお話をその部分は含めてますだとか、これからも十分に検討していきますという言葉は添えているのは、僕らはあの設計案には、いろんな思想、考え方、新しいアイデアも含めて入ってたもの、活かせるものを活かすというのは、そういうところが入ってるんですね。僕ら議会の声としては。

町長の中でもう一度、町民説明会とかで足りなかった現設計に対して、あまりにも否定しすぎた。全部否定しちゃったんで。そここのところの考えを改めて聞きたいんですけど。

○議長（大久保健一君） もうちょっと質問が明確というか。もうちょっとはっきりと、具体的に。

○議員（三澤公雄君） 今、僕らが先ほど選全協でお話しした、④という案を提案しましたが、ここに寄り添うためには、今示されている現設計を全く否定した立ち位置で、町長が向かわれてきては、歩み寄るところがないと思うんだよね。

だけど、今質問何人かの議員から答弁聞いた時には、なるほど、その通りっていう感じで、大方聞いてもらっていたんで、そうすれば、そもそもの町民説明会の時の町長側の立脚点、現設計をすべて否定するところから始まったところとは、考え方が違うと思うんでね。

その辺の考え方もちゃんと示してもらわないと、今日またお別れした後に食い違いが生まれるのかなと思いますので、そこをちょっと心配になったんで。

○議長（大久保健一君） 意思統一しておきたいと。わかりました。

○議員（三澤公雄君） あの建物は、ちょっと言葉を短くし過ぎますけど、デザインありきの新庁舎じゃなかったんですよ。デザインは、僕はおまけだと思ってます。いろんな機能性だとか、将来負担だとか、八雲のシンボルってことも含めていろんなことを盛り込んだ中で、隈研吾というおまけがあったから、ああいったデザインになったと。

それをデザインありきの新庁舎だっていう説明会に終始して、ただただごめんなさいで行かれたものだから、町民の中には、あの説明会をもってして改めて、今までの設計はとんでもないねっていう認識を新たにしちゃった人たちが多と思うんですよ。

だから、僕たちが今全協でね、第4案として示した現設計で十分使えるものは活用してっていうのは、あまりにも否定されすぎたもの、僕たち十分町側と議論して、いわゆる内部の部分で盛り込んできたものまで否定されたということで、その違和感があるから④案というかたちにしたと。

町長の中でそこをちゃんと汲み取ってもらわなきゃいけないと思うんで、説明会で示した萬谷町長の考えは、あの設計はすべてがダメだというイメージを僕は受けました。

なので、違うのであれば、ここで改めてこういうところは使えるとかっていうことも言葉に出しながら言ってもらわないと、立ち位置があまりにも違うんじゃないかなと思いますけれども。

○町長（萬谷俊美君） 議長、町長。

○議長（大久保健一君） 町長。

○町長（萬谷俊美君） 基本的に細い部分の説明はしなかったんで、どうしても現設計の三澤議員がおっしゃるコンセプトの部分といいますか、思想の部分といいますか、そこを説明して、だからダメなんだっていう個別な説明ができなかったのは確かでございます。

当然、今再設計する中では、議論を積み重ねてやってきて、あの平面というかあのデザインになっています。隈研吾さんの思想の中には、横にある徳川公園との協調の部分としてました。それから町民の憩いの部分も、町民アンケートの中でありました意見として、くつろげる場所のスペースという部分もあって、あそこに入っていたと私も思っております。

それと、将来に向けた維持費の部分では、ランニングコストのかからないということで、太陽光発電のそういった省エネ基準も高いところを目指して、補助金を追求してやってきたというのも確かでございます。

その辺で平面の部分でも、例えば議場の部分でも、議会からの提案を生かして、何度か変更をしてきております。その意見は、次の設計に当然活かして議会側の議場といいますか、議会スペースの部分に関しては、十分配慮して原案を作った中で、また再提案して意見を聞きながら進めていきたいというふうに思っていますので、全くゼロベースという意味の、現設計から全く違うんじゃないよっていうことの説明不足は、本当にあれですけど。活かせるものは活かしていきたい、そう思いながらおります。

ただ、ゼロってというのは、面積が小さくなるだろうという想定と、平面が全く変わってくるということからすれば、構造計算からやり直さなければいけないと。外壁についても全く変わってしまうし、屋根構造も変わってくるということからすれば、わかりやすい言葉で言うと、設計をし直すというゼロベースという言葉のほうが町民にとってはわかりやすかったのかな、ということでの説明だったので、その辺は誤解を招いたとすれば申し訳ないと思います。

基本的には、活かせるものは活かして、基本計画、基本設計は、やっぱり1からそういうことも加味しながらやっていくということなんで、積み重ねた議論を無駄にしていくつもりはないし、町内にもいろいろの機能性の部分では、ストップ窓口の設置だとかという部分は、当然活かしていかなきゃならない機能だというふうに思っています。

それで、教育委員会は当然中に入ったほうがいいたろうと。ワンストップの部分でいうとね。手続きを町民が一度に済むようにということで、保険もそうですし、戸籍も当然そうですけれども、そういった窓口の考え方は、当然変える必要も何もないので、そこは活かしながらやっていきたいので、設計段階でも図面や絵を引いたり構造計算に時間はかかるかもしれませんが、そういった平面の協議の部分では、時間をかけずに進めていけるだろうなというふうに、内部的には思っているところでございますので、その辺はご理解いただければなと思います。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（大久保建一君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 言葉たどたどしい質問だったけれども、今の町長の言葉で改めて認識をちょっと持ち直して、ゼロベースってという言葉。確かに、使いやすい言葉だけど、やっぱり全否定されるべきものだったっていうようなイメージがかなりついてしまったんで、それで改めてちょっと確認しました。理解しました。

それで、また別に質問しますけどもいいですか。4,500㎡という数字を先ほど示されましたけど、赤井議員の提案で、教育委員会を入れるっていう、今この場でね、今まで入ってなかったんだっていうことだったんですけど、この4,500っていう数字を弾き出す時には、当然、教育委員会のことは入ってなかったんですけど。

○議員（安藤辰行君） 最初から入ってるよ。

○議員（三澤公雄君） 入ってる。だって、シルバープラザを公民館にと言ったときには、シルバープラザに教育委員会があるっていう説明だったんでないの。

○議長（大久保健一君） 貸館の部分だけが。

○議員（三澤公雄君） それは、議論していった明らかになったから。じゃあ、最初から赤井さんの質問で、教育委員会は中という流れになったと思ったけど。

萬谷さんの提案の中には、役場機能の中には教育委員会ももちろん入っていることですか。

○町長（萬谷俊美君） 議長、町長。

○議長（大久保健一君） 町長。

○町長（萬谷俊美君） すみません。僕、舌足らずだったのかもしれませんが、現設計の中で庁舎機能、それから保健センター機能、公民館機能というふうに3つの分野に分かれて、以前、説明してたかと思うんですが、今回の公民館機能というのは、あくまでも貸館。社会教育団体等が使うスペースの部分の面積であって、教育委員会の事務スペースというのは、庁舎部門の中に入っています。

なので、今回の公民館機能を話した時には、シルバーのほうには教育委員会事務所が行くということではないので、最初から教育委員会は、庁舎機能の中に入れていたいという思いで入っていますので、よろしくをお願いします。

○議長（大久保健一君） さっき示された約4,500㎡に、学校教育課も社会教育課入れても、4,500㎡っていうことでしょうか。理解いいですか。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（大久保健一君） ほか。

○議員（倉地清子君） はい。

○議長（大久保健一君） 倉地議員。

○議員（倉地清子君） 町民説明会の時に町長のお話で、1億9千万円を使ってしまった部分を差し引き、当初予算でやれるような進め方をしていくということを示したと思うんですけども。これは、現シルバープラザを改修するものも含まっての金額っていうことで、考えてるんですか。

○町長（萬谷俊美君） 議長、町長。

○議長（大久保健一君） 町長。

○町長（萬谷俊美君） シルバープラザのほうに、例えば、公民館機能を入れたときの改修費の考え方なんですけど、シルバープラザはもう築30年近い建物でございます。

本来は、20年過ぎたあたりから改修計画をきちんと立てて、設備も外壁も屋根も計画的に補修していかなきゃいけない時期になっている建物だと認識しています。それをちょっと先送りしている部分もありますので、その改修、長寿命化といいますか、50年60年使える施設なので、そこを見据えた中で公民館機能も一緒に入ることによって、改修を大きくやりましょうという考えであります。

ただ、その時の財源の問題がやっぱりついて回るのかなというふうに思っていますので、いくらかかるのかはこれからの話になりますので、入ることによる内部の修繕がどの程度あるのかという、要は、壁をつけたり取っ払ったりっていうところも出てくるだろうし。

説明会に出てた、ホールを欲しいという分断面のほうの代表の方のお話もあったので、大ホールの改修が、そしたら少しでも機能性を高めるための改修をしたらいくらかかるのかという部分も検

討材料に入れながら、いくらそちらに移った時にかかるかという部分もちょっとそこは視野に入れながらやっていきたいという今の現時点の思いであります。

ただ、先ほど言ったように、庁舎で現計画にいくら下がって、そっちのほうの修繕にいくら回せるのかという部分がありますので、倉地議員のおっしゃった、無駄の1億9千万円が考慮して低く抑えるという話になりますけれども、そこは今後の進め方の中で、そこまで抑えられなければ若干1億、2億でもかかっても、シルバーの補修ということが出てくるのであれば、やむを得ない選択肢かなというふうに思いながら、今頭の中では、そういうイメージで、今後進める部分はいかなきゃいけないのかな、というふうに思っています。現在はね。よろしくをお願いします。

○議長（大久保健一君） よろしいですか。

○議員（倉地清子君） はい。

○議長（大久保健一君） 他ございませんか。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保健一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） これは本当に大きな決断なんで、もしかしたらこれで議会との協議がこの件に関しては最後になるのかな。これは、しっかりといろんなものっていうものを出さなきゃならないから、ちょっとめんどくさいことばかり言うけど、申し訳ないです。

○町長（萬谷俊美君） いいえ。

○議員（関口正博君） 副町長にお伺いしたいんですよ。これまで、今先ほど三澤さんの話に通じるんだけれども、これまで外部の部分に関しては、当然いろいろな意見があったのは議会も承知してるんだけれども、内部に関しては、前回も申し上げたんだけど、要は、職員が働きやすいようなことは議会からも要望を出してきてますよね。

それで、設計が出来上がったと僕らは思っているんですよ。公民館機能は別として考えても、職員が働く機能の部分としては。その部分が今ゼロになるというわけですけども。

副町長は、当時そういう陣頭指揮をしてきて、まあ、もちろん町長がいろんな指示を出してきたのかもしれませんが、しっかりとした議論が積み重なってはいったんでしょうか、職員の皆様方の働く環境として。職員の皆さん方は、十分協議してくださいということを、特別委員会等で当時も申し上げてきたつもりなんですけど、そこらへんというのは、ちゃんとしっかりと協議が積み上がってきて、最後の設計にちゃんと活かされたという思いはありますか。

○副町長（竹内友身君） 今の現設計に関わる内部の職員が働いている環境ということなんですけれども、平面を決めるにあたって、やっぱり窓口機能だとか、どういった配置にしたらいいのか、どういった機能、例えば、打ち合わせスペースだとか相談室だとか、そういった機能をどこに配置したらいいのかとか、そういったものは、各課を交えて意見を聞いてまとめてきてございます。

職員からいろんな意見は出されますけれども、やはり私たち一番に考えるっていうのは、窓口をメインに考えました。いかに町民の方が入ってきたときに分かりやすく、例えば、手続きするにしても、1か所に行けば職員がいろんなところから来て手続きをしてもらおうというような配置にして、そういったものを考えてやってまいりましたので、今の現設計の中では、ある程度そういったものが網羅できているかとは思っています。

今、関口議員おっしゃいました、今までの議論がゼロベースということで全く考えられないのかっていう心配もあるということだったんですけども、もともと特別委員会を立ち上げていただい

たときのその提言というのは、やっぱり基本的な部分は網羅されておまして、防災機能ですとか、窓口の機能性ですとか、町財政の配慮ですとか、そういった諸々がありますけれども、その辺は今までも考えてまとめてきていますし、これからも今ゼロベースとは言いつつ、そういった機能は確保するというのは当然のこととっておりますので、その辺は十分再度設計する中でも反映させていきたいと考えてございます。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保健一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） 町長、ゼロベースという言葉についての意見もありましたけれども、僕はゼロベースのハードルってものすごく高いんだろうなと思ってるんですよ。だからこそ、今副町長の意見をお伺いしたんです。しっかりとしたこれまでの議論というものが活かされつつ、次の設計に活かされるのであれば、それは多少ハードルは下がるんだけど、当然、役場の仕事として、これからの3年間本当に大変だろうなと思うんですよ。もちろん、町長としていろんな思いがあって、この決断に至っているっていう思いは理解するんだけど。

逆に、僕らは本当に不安でならないんですよ。これが本当にスケジュールの中によって、しっかりとしたものが出てくるか。ましてや、これほどまでに日本全国に、この状態というものを知らしめてしまったという部分においては、これは本当に金額の面において、めちゃくちゃハードルが上がってるんですよ。

ですので、それはそれとしても、町としてかかるべきものはかかる。将来負担がないようにという言葉を先ほど申し上げましたけど、そこにとらわれないでどうか進めてほしいんですよ。ゼロベースであれば、ゼロベースでいいんだけど、金額を下げるということだけに固執しすぎて、本当の将来八雲町の財政の負担になるようなことだけは避けていただきたいということは、改めて申し上げたいのと、もう1つ。

前回、僕も質問いたしました、このZEBの考え方ですね。コストを下げるために、この省エネ基準というものを少し緩いかたちにするんだということを申し上げておりましたけれども、やはりこれも申し訳ない。俺もZEBに関してそんな深い議論を議会議員としてすることができなかったことは、これはお詫びします。僕はこれが終わった後にいろいろ調べた中で、やはりこれはそんなに無視することはできないんだなということを認識いたしましたので、改めてちょっと議会の議論の中でZEBがちょっと薄かったな。補助金目的だったよっていう副町長の言葉が前回ありましたが、まあまあ議員もそういう意識の中で進めてきてしまったことに関しては、これはお詫びしなきゃならないなというふうには思うんだけど。

ただ、この省エネ基準は、赤井さんとかも申し上げてるけど、再生可能エネルギーに関しては、当然いろんなコストがかかるんでやめましょうという決断はわかるんですよ。でも、要は、省エネ基準だけはしっかりとしたものにしておかないと、当然将来のサイクルコストってかかってくるんで、そこもコストに捉われるあまりにコストがかかってしまったと。これは本当おかしな話になってしまいますので、そこだけは避けていただきたいのと。

あと、最近の話では、ニセコ町の庁舎というのは基本設計的にもなんかいろいろ見た記憶があるんですけど、あそこの庁舎は再生可能エネルギー。要は太陽光パネル等は諦めたけれども、建物の断熱性能は抜群なものを建てたんですよ。

それで結果、そういういろいろな燃料コストというものを下げることに成功したということも、これは見た限りですけども。ですので、やっぱり建築コストっていうのは、僕はかかるんだろうなと。そういうものを建てるためには、そういうものが必要なんだろうなということ、改めて認識したんですよ。ですから、そこは本当に金額に捉われないでやってほしいのと。

もう一点は、防災拠点。今の6,000何がし㎡の中で、災害の際に収容人数というものが確かあったはずですよ。3千人とか。これは、養護施設も含めてなのかもしれませんが、その計画すらも変わってしまうってことをちゃんとご理解してるんでしょうか。

○町長（萬谷俊美君） 議長、町長。

○議長（大久保健一君） 町長。

○町長（萬谷俊美君） 今、関口議員のゼロベースでも活かすものを活かしてという話の中でのことだというふうに捉えています。まずは、今回は全国的な話題になった1つは、やはり著名な隈研吾さんを設計改修したということが、やっぱりテレビ的には話題性がニュース的になりやすいということを取り上げているのかな、というイメージでございます。

庁舎にそういったデザイナーを使ったということで、建設新聞にも出てましたけど、庁舎で全道全国初みたいな書き方をしましたので、そういった意味での話題性ということだというふうに思っています。時間のなかでやっていかなきゃいけないのは当然なんですけれども、そこは先ほども言いましたけれども、進めていくことにハードルが高いというふうに思っていますが、先ほども言ったように、設計金額の最初にあたっては、そこは十分配慮して、不作にならないようなかたちの設計にはしていく覚悟でいますので、そこはもう時間ないので本当にそれでまた踏みとどまると、時間を費やしますので、そういった部分がないように進めていきたいというふうに思っています。

あと、ZEBの補助金の話は、関口議員が一生懸命調べたということなので、当然、太陽光発電は設備の経費の割に省エネの効率の部分からいくと、どうしても効果が薄いと私は調べた中では認識していますので、そうであれば、さっき言った断熱構造にしたり、サッシのそういったもので割高のものを選んでランニングコストが下がるような省エネ基準のものを使っていくのは、今後の考え方として、必要なことだというふうに思っていますので、そこは十分配慮して省エネに配慮してやっていきたいと思えます。

災害のスペースの話については、次長からお願いします。

○新庁舎建設推進室次長（吉田正樹君） 議長、次長。

○議長（大久保健一君） 次長。

○新庁舎建設推進室次長（吉田正樹君） それでは、防災の関係で説明させていただきます。

現庁舎は、公民館機能エリアの部分と養護学校の体育館そちらを何かあった時の一時避難場所ということで、指定をする予定でした。今後、公民館機能がなくなった場合に、防災機能としてどういう面が残るかということなんですが、保健センターの子どもを預かる一時預かりの部屋と、あと保健センターの中には診察台があったりとか、相談室があったりとか、養支援者が避難してきたときに個別対応が必要などということ、もともと想定していたので、そういったところは起用として残す。

さらに発達支援センターですね。もともとそちらのほうまでは使う予定はなかったんですけども、そういったところも受け入れた際には対応できるような設備として、もうちょっと拡張して考えることができるのかなというふうに思っています。よろしいでしょうか。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保健一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） 先ほどの太陽光パネルの件なんだけど、この防災拠点ということ考えたときに、今回八雲町の教訓として持っていかなきゃならないのは、要はカムチャッカ沖地震の教訓を生かすとするならば、要は、指示系統というものは当然、新庁舎が請け負わなければならない。消防庁舎というものがそういう地域に建っているということはね、防災拠点の指示系統というのは、庁舎に持ってこなければならない。

今回、公民館機能がなくなるんで、そういう3千人の収容が多少少なくなるというのもあるし、さらには、当然町民の方々が災害時に避難する場とするという機能も求められると思うんだけど、その際には、やっぱりいろんなことを想定した場合には、この再生可能エネルギー、太陽光、もちろん割高であるということは認識するんだけど、庁舎という考えのもとでは当然そういう太陽光パネルが懸念される理由は分かるんだけど。ただ、防災拠点というふうことを加味するのであれば、この太陽光パネルを検討せざるを得ないんじゃないかという思いついていうのを我々は持っているんですよ。

ただ単の役場庁舎機能だけではないということ、防災拠点としての庁舎、施設としての庁舎ということ認識した中で、当然減らすということになれば、シルバーにそこら辺を分散させる防災計画そのものをまたやり直すというか、考え直さなければならないということも増えるということは認識されているんでしょうか。

○副町長（竹内友身君） 議長、副町長。

○議長（大久保健一君） 副町長。

○副町長（竹内友身君） ただいま、関口議員がおっしゃった避難の関係ですね。確かに、公民館機能で予定していた部分を今の新庁舎と保健センターの中で、ある程度確保するという考え方でいかなきゃないと思います。あと、養護学校の体育館が避難場所ということで、そちらも合わせて進めていかなきゃない部分ですが、今おっしゃったシルバープラザですね。ここも一時的な避難場所として使用される場合はあるんですけども、その辺やはり避難所としての扱いも今後考えなきゃいけないと思いますが、その辺は危機対策のほうと情報共有しながら進めてまいりたいと思います。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（大久保健一君） 関口議員。

○議員（関口正博君） 本当にいろいろなことを申し上げるんだけど、それだけの議論がこれまで積み上がってきているんですよ。

どうか活かせる部分はしっかりと活かしつつ、本当に将来世代が困らないように、将来の町財政の負担にならないようにということを第一に、本当に建設コストだけにとらわれずに、どうか進めていただきたい。本当に早くいかなきゃなんないから、もうここでもう議会との協議を打ち切らなきゃならないでしょう。それで、新たに構築していかなきゃならないだろうから。

○町長（萬谷俊美君） もう一日は予定していますので。16日も全協あると聞いておりますので。

○議員（関口正博君） いずれにしても、議会の要望なんだけど、もっとちゃんといろんな問題点というのをやっぱりちゃんと出すべきで、言った、言わないってやっぱりね。

当然、行政側にとってもこういうことがあるのかと気づくことがあるのかもしれないし、ちょっとめんどくさいかもしれないけど、もう一回しっかりとした議論をできるのであれば、それに向けて、我々もまた勉強してきますので、よろしくお願いします。

○議長（大久保建一君） 16日にまた協議の場がある。

○議会事務局長（野口義人君） 16日です。

○議長（大久保建一君） ということでいいですよ、認識で。

○町長（萬谷俊美君） 今日で議会側の意見集約ができるというふうにはちょっと思ってなかったので、16日も全協があるので、その時でもいいなという考え方ではおりました。

○議員（関口正博君） わかりました。

○議長（大久保建一君） ほか。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（大久保建一君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 議会のほうでは、現設計を活かしてっていう言葉の中に、今の業者さんと改めて新しい設計をお話したほうが時間もお金もかからないんじゃないかということにまとめたんですけど、役場のほうでは今のこの提案の中では、どういうふう考えてるんでしょう。

○建設課長補佐（池田裕史君） 議長、建設課長補佐。

○議長（大久保建一君） 補佐。

○建設課長補佐（池田裕史君） 今、三澤議員のおっしゃる内容なんですけれども、まず今の福祉機能、そして町民センター機能、これを変えずに設計を変更するのであれば、そういった設計変更というのは可能かと思うんですが、もし今言ったダウンサイジング。将来的な建設コストを下げるといった目的のもと、機能を集約する場合。そして、部外にやるといった変更を考えた場合は、ほぼゼロベースの設計になるというふうに判断しております。

○議長（大久保建一君） よろしいですか。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（大久保建一君） あと、よろしいですか。

（「はい」という声あり）

○議長（大久保建一君） それでは、今日示されました、町からの公民館の貸館部分については、シルバープラザを改修して充てると。あと、教育委員会はもちろん庁舎に含めて、保健福祉課の機能は合同の庁舎にするっていうご提案については、議会では了承するというところでよろしいですか。

（「はい」という声あり）

○議長（大久保建一君） では、その考え方は議会としては了承したということで受けます。

それで、町におかれましては、各議員から寄せられました意見を十分くみ取っていただいて、議員議会のほうでとても一番心配しているのは、今までの不祥事だとか、事務ミスだとかハードによって全部改善されるとは思ってないんですけども、今までのなんかを見ると、職員同士の連携っていうものがどうしても足りてないんじゃないかっていうことを皆さん結構心配していますので、そこら辺を十分くみ取っていただきたいと思います。お願いします。

あと、今後も庁舎建設におきましては、議会側と密な情報共有というのをさせていただきたいと思っております。議会側としても、まだ基本的な大きな方針は認めたということにはなるんですけども、これからは提案というのはあると思いますので、使い方だとか細かい部分ですね。その辺は、

意見出てくるとは思いますので、そこらへんもスピードは速くしていかなくやならないんですけど、その辺も16日等に向けて、また各議員考えてまいりますので、組んでいただきたいと思います。ということでよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○議長(大久保建一君) 以上で終わります。

【新庁舎建設推進室職員退室】

○議長(大久保建一君) 次、その他何か打ち合わせの方いらっしゃいますでしょうか。

(「なし」という声あり)

○議長(大久保建一君) 事務局はありますか。

○議会事務局長(野口義人君) 来週以降の予定で、2月12日の木曜日に定例の総務がございます。あと、2月16日月曜日、今お話出ました全員協議会が開催されます。

中身としては、ただいまの問題と、あと令和8年度の新年度予算の概要について。あと、総合病院の職員の盗撮事件の変化と処分について、4件目が特定政策事業、ウイスキー事業について報告を受ける予定になっております。以上です。

すみません。全協終わった後に、議会運営委員会を定例でやるってということになっていますので、全員協議会終了後、議会運営委員会も開催するということです。

○議長(大久保建一君) はい。その他は以上でございます。

では、活発のご意見いただきまして、誠にありがとうございます。それでは、第2回全員協議会を閉会いたします。お疲れ様でした。

[閉会 午前 11時45分]